

福井市学校版環境ISO 実施計画書

福井市長 様

私たちの学校は、恵み豊かな環境を守り未来に引き継いでいくために、環境保全に関する学習、教育及び活動を積極的に行って環境にやさしい学校づくりと生命や自然の大切さを理解し郷土を愛するモラルの高い児童生徒の育成に取り組むための実施計画を作成しましたので、福井市学校版環境ISO認定制度による認定の更新を申し込みます。

令和4年 4月22日

学校名 上文殊小学校

校長氏名 正玄 千嘉子

1 今年度の目標(学校の約束)

- (1) 上文殊地区の環境、地球環境について学習します。
- (2) 水や電気などの資源を大切に使います。
- (3) ごみを減らし、リサイクルに努めます。



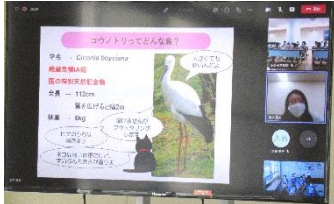

2 取組内容

- (1) 環境学習
 - ・上文殊地区の自然環境を、教科や道徳、総合、学校行事などの学習に生かします。
- (2) 節水・節電の取組
 - ・委員会の呼びかけをもとに、全校で節水・節電に取り組めます。
- (3) ごみの減量・リサイクルの取組
 - ・資源回収(古紙、アルミ缶)をPTAや地域と連携して行います。
 - ・反古紙の積極的な活用に努めます。

★ ESDポイント(取組内容の内、1項目についてESDの視点をどのように取り入れるかを記載してください。)

(1)の自然環境を活かした学習では、「自然とのつながりを理解して多面的に考える力」や、「自分たちの役割を理解して、進んで参加していこうとする態度」が身に付くようにします。

福井市学校版環境 I S O 実施報告書

<p>学校名</p> <h1 style="text-align: center;">上文殊小学校</h1>	
<p>1 今年度の目標 (学校の約束)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 上文殊地区の環境、地球環境について学習します。 ② 水や電気などの資源を大切に使います。 ③ ごみを減らし、リサイクルに努めます。 	
<p>2 取組内容</p> <p>①環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生総合的な学習の時間の取組「稲っ子クラブ」で、地域の方々の協力のもと、稲の生長を観察したり、藁細工を教えていただいたりしました。 ・ 6年生が環境学習の一環としてフードロス問題に取り組み、全校に呼びかけるCMを作成して Teams で配信しました。また、県の SDGs 出前授業では、コウノトリとの共生についてオンラインで学習しました。 <p>②節水・節電の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健・給食委員会の呼びかけのもと、全校で節水・節電に取り組んでいます。 <p>③ごみの減量・リサイクルの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P T Aや地域と連携して、6月と12月に資源回収を行いました。回収量は合計約17tでした。 ・ 教職員は反古紙の利用に努めています。また、職員会議等、業務におけるペーパーレス化を推進しています。 	  
<p>★ E S Dポイント (取組内容の内、1項目についてE S Dの視点を取り入れたポイントを記載して下さい。)</p> <p>①について、「稲っ子クラブ」の活動では、学校に隣接した田んぼで稲の生育調査をしたり、地域の方々から米栽培や藁の活用について指導を受けたりすることを通して、地域社会や自然と自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度を育むことができました。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 見直し</p>	<p>【具体的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生活科や総合、社会科の学習での地域の自然環境に触れる活動を通して、自然の恩恵を体感するとともに、自然を大切にし、豊かな産物を生み出す環境を守ろうとする気持ちが育まれています。 ② 発達段階に応じた環境学習やエネルギー学習を通して、資源を大切にする意識が高まり、進んで地球環境を守ろうとする行動や態度が身に付いてきています。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度もコロナ禍の影響により、地域の方々と共に活動することに多くの制限がありました。規模縮小や感染対策などの工夫をし、家庭・地域・学校が連携して環境問題と向き合う取組をより一層推進していきたいと思えます。